

—地質調査所の新出版物の紹介—

地質調査所蔵書目録 東アジアおよび東南アジア (1945年以前のもの)

岡野 武雄¹⁾

1. はじめに

この蔵書目録は、1945年以前に日本の機関あるいは日本の研究者などにより発行または執筆された、日本本土を除く東アジアおよび東南アジア地域に関する地学関係の文献で、地質調査所資料情報課が保有するものの目録である。すべて50年以前に作成されたものであるが、今日でもその重要性を失っていないので、地質調査所蔵書目録として出版した。現在活躍中の地質技術者の参考になると思うので、その概要を紹介する。

この蔵書目録に収録されている文献類は、主に1946-1947年頃までに資料情報課の書庫に収納されたもので、長い間未整理のままであった。これらはどのような経緯で資料情報課に集められたものか、今日では不詳である。文献類の一部には1945年以後、寄贈を受けたものおよび古書店から購入したものも含まれている。文献類の元の所有者は1945年以前に大陸に存在した公私の機関の、あるいはこれらの機関に勤務していた地質技術者の所有のものであったと推察できるが、大部分は元の所有者が不明である。

文献類の種類は多様である。国立の研究機関およびこれに類する機関の刊行物、学術団体・業界機関の刊行物、民間出版社発売のもののほか、これら組織の内部資料で非公刊のもの、生原稿、青焼図などである。

文献類の総数は、1冊1700ページ以上の地理書、わずか1片の鉱石価格表、定期刊行物の雑誌各冊などをそれぞれ1点と数え、合計で4600余点である。

文献類の形態は、大冊の全集本、機関発行地図

類、報告書類、パンフレット類などの活版印刷物の他に、孔版(いわゆる鉄筆ガリ版刷、タイプライター孔版印刷、発行部数は200部前後と推定)、カーボン紙コピーのタイプライター打ち出しの報告書(発行部数は数部)および手書きの原稿類と地図類である。

この蔵書目録は次のように構成されている。第一部 地域全域、第二部 中国大陸、第三部 朝鮮半島、第四部 台湾島、第五部 サハリン(樺太)島、第六部 シベリア地域、第七部 ビルマ・タイ・マレーシア地域、第八部 インドシナ地域、第九部 インドネシア・フィリピン地域、第十部 南洋諸島、付図、付録。

各地域別の採録資料の点数を第1図に示した。

各部分は地図類、報告書類に分けて配列されている。付図は8図あり、地質図幅・地形図幅の位置図と1945年以前の一時の中国東北部の行政区分図を載せてある。付録には1945年以前に出版された本地域内の外国の機関の出版物の一部を収録した。

個々の文献類は、番号、題名、著者名、発行者又は所属先、発行年、頁数、備考の項目順に表示されている(18ページ参照)。

以下、目次順に追って内容の概要を紹介したい。

[]内はその項目に含まれている文献の点数を示す。

2. 収録内容

第一部 地域全域

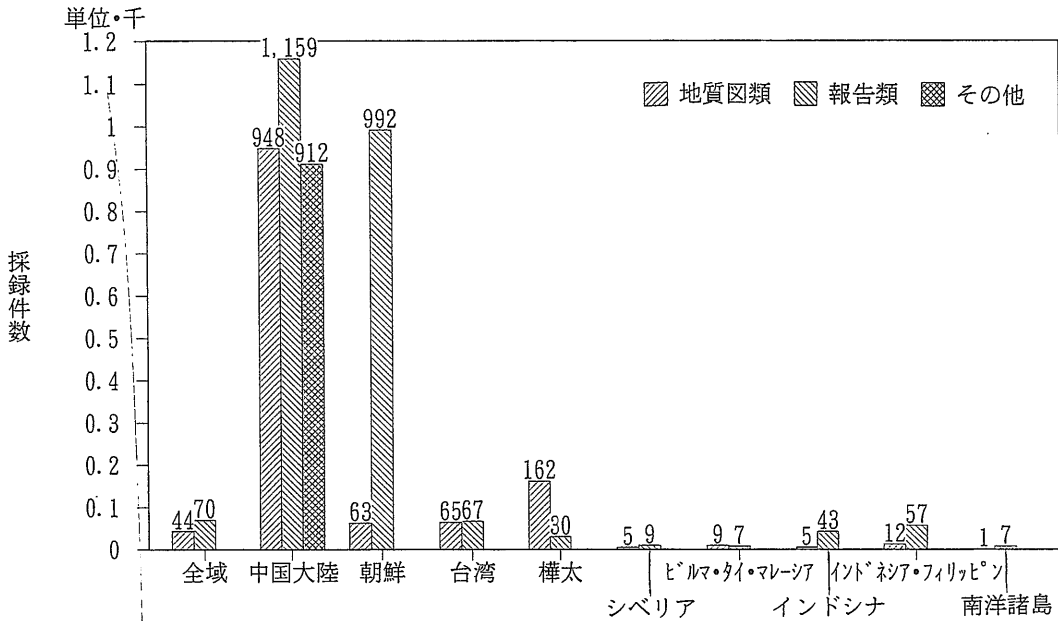
A. 地図類

1. 地質図および鉱物資源分布図[8]

本蔵書目録の地理的範囲全域を対象とする地図

キーワード：蔵書目録、地質図、資源図、東アジア、東南アジア、1945年以前、地質調査所

1) 元所属：〒270-11 我孫子市柴崎台3-15-15



第1図 地域別資料の点数

類.

2. 地勢図[36]

上記の範囲をおおう地勢図のほか、同類地勢図の分冊図、2つ以上の地域にまたがる地勢図。

B. 単行本およびその他の出版物

3. 単行本類[35]

広域を対象とする単行本およびシリーズ本の分冊。

4. 文献目録および研究所報告[18]

広域内に関する文献目録、広域を対象とする報告書類の分冊類。ほとんど東亜研究所発行のもの。

5. 地理・鉱物資源および鉱業[17]

広域の鉱床資源および鉱業に関する単行本、表、講演要旨など。

第二部 中国大陸部

A. 地図類

1. 地質図・鉱物資源分布図・地形図幅および海図

1-1 地質図[29]

支那地学調査地及地質図第一帙(34葉)、第二帙は欠。東亜地質図(17葉)。地質図類は、主に満鉄、山東産業館発行のもの。

1-2 鉱物資源分布図[44]

北支・満洲の石炭・金属・非金属の鉱物分布図、

鉱産分布図などが主である。東亜研究所発行「中国の鉄、石炭、タングステン及アンチモニー、錫及マンガ、塩の生産並流動略図」、5図 1939、など。

1-3 地形図幅[659]

100万分の1[53](1898-1933年)、50万分の1[32]、10万分の1[23]、5万分の1[24]、2.5万分の1[1]。(地図一覧図は付図3、4に図示)。その他、隣接する10万分の1地形図数枚を1組とした組図幅が29組ある。地域としては、河北・山東・河南・綏遠・察哈爾・寧夏省内である。各組4-30枚で構成され青焼図である。

1-4 海図および気象図[28]

海図(1931-40年)[26]、気象図[2]。

2. その他の地図

2-1 広域地勢図[67]

100-700万分の1の地勢図など。

2-2 局部地勢図[63]

5-100万分の1の地勢図など比較的狭い範囲をおおう地勢図。

2-3 都市図および都市周辺部地図[28]

主に、縮尺は1-50万分の1。

2-4 交通図[14]

主に、鉄道路線図。

2-5 一般産業資源図[16]

B. 単行本・定期刊行物および雑誌類

3. 単行本類
- 3-1 地質・鉱物資源および鉱産統計[60]
第一次滿蒙學術調査研究団報告(1934-36), 滿洲(西部)・(北東部)・(北西部)・(西部)の地質及地形(1937)の4分冊など。
- 3-2 地理[14]
支那地学調査報告1-3巻(同地形地質図の第一帙は1-1に載せてある)。
- 3-3 気象[5]
関東庁観測所 滿洲気象報告(1917-1921)
- 3-4 その他[63]
図解滿洲産業大系, 5分冊(1933). 支那工業綜観(上下)(1942). 支那省別全誌, 1-18巻(1917-20). 滿蒙全書, 1-7巻(1922-23). 滿蒙全集, 1-5巻(1920).
4. 出版・蔵書目録および要覧[35]
支那関係の文献, 蔵書目録, 滿鉄, 南滿鉱業, 北支那開発, 滿洲軽金属, 滿洲採金, 滿洲国地質調査所などの社史, 要覧。
5. 地質図幅および同説明書[28]
40万分の1「大連, 營口, 大弧山, 桓仁(図欠), 公主嶺(図欠), 鳳凰城(図欠), 奉天, 吉林, 豆滿江, 承德(説明書欠)」。15万分の1「龍井, 大石橋(説明書欠)」。1万分の1「大同北部炭田」15図幅(写真コピー, 青焼図)。
6. 国立研究機関定期行物など
- 6-1 国立研究機関出版物[58]
滿洲国地質調査所の地質調査報告, 93-97号, 98-99号, 滿洲帝国地質調査所彙報, 100-109号(1940-1944)は, 滿鉄発行の清国鉱業時報, 支那鉱業時報, 地質調査所報告を引き継いだものである。本項には(滿洲帝国)地質調査所要報, 1-18号などを含む。ただし, 滿洲帝国国立中央博物館論叢, 大陸科学院彙報, 大陸科学院研究報告, 上海自然科学研究所彙報, 山東産業館報告は一部のみ収蔵されているに過ぎない。
- 6-2 大学紀要など[39]
旅順工科大学紀要の一部。
- 6-3 臨時出版物[22]
海外鉱物調査報告を収録。一部は復刻版。
7. その他研究機関等の報告書類
- 7-1 地質および地理[126]
滿鉄の清国鉱業時報(2, 3, 5, 13号欠), 支那鉱業時報(19, 20号欠), 地質調査所報告など, 南滿洲鉄道株式会社(滿鉄)の研究機関の出版物を含む。
- 7-2 黄河[55]
水文関係の文献で東亜研究所発行のものが多し。
- 7-3 資源一般[68]
鉱産地一覽, 鉱業開発, 現況, 資源調査隊による広域の調査報告, 鉱産物分析表, 鉱産統計, 鉱業法, 鉱区一覽など。
- 7-4 石炭[30]
主に北支の石炭の開発, 炭田事業調査報告類。
- 7-5 石油および油頁岩[4]
支那の油田, 撫順の油母頁岩に関する文献。
- 7-6 金属鉱物資源[27]
滿洲採金事業方策関係資料, 鉄鉱調査資料, 開発方策資料, 金属鉱物調査資料。
- 7-7 非金属鉱物資源[20]
マグネサイト, 礬土鑛, 塩調査報告, セメント, 板ガラス工業の立案調査資料など。
- 7-8 水資源[4]
滿洲の兵要給水調査資料。
8. 鉱工業関係雑誌類[401]
滿洲地質学会誌, 滿洲鉱業協会誌, 日滿支石炭時報など, および滿洲地質見学旅行案内1-8班(1940)。
9. 別刷類[100]
- C. 非公刊報告書類
10. 非公刊報告書類
- 10-1 地質[32]
この項には地質調査計画案, 土壤調査, 隧道予定地地質調査, 建築物周辺の土質, 鉄道沿線の地質, 試錐調査報告などが含まれている。これらは主に滿鉄地質調査所において作成され, 対象地域は黒龍江省[3], 吉林省[8], 遼寧省[8]河北省[3]である。
- 10-2 黄河[7]
黄河・黄土の文献集, 黄河河道変遷図などを含む。全て東亜研究所作成。
- 10-3 陸水[16]
16点中15点は滿鉄地質調査所作成。うち貯水池堰堤予定地調査[10]。地域別では河北省[1], 黒龍江省[1], 吉林省[7], 遼寧省(およびその周辺)[7]である。
- 10-4 鉱物資源一般および工業[114]
鉱産地一覽, 鉱産統計, 支那各地の鉱産資源調査

報告, 北支那の工業, 北支那のセメント工業および遼寧省の応用地質調査報告[15]を含む。

10-5 石炭資源[243]

本項は石炭の分布・埋蔵量・分析に関するもの[42](北支那のものが多い), 炭鉱現況調査報告[28](河北省の炭鉱[10], 山東省[8], 山西省[5]), 北支那炭田炭質適性調査[9](大同[3], 井陘[2]), 労務管理[1]と炭鉱各論[127]から構成されている。炭鉱各論の省別内訳は河北[26](井陘[6], 齊堂[4], 開灤[5]), 山東[17](章邱[2], 淄川[2]), 山西[13](大同[11]), 河南[2], 江蘇[2], 湖北[2], 内モンゴ[4], 遼寧[30](撫順[8], 阜新[4]), 吉林[25](密山[5], 間島[2]), 黒龍江[2], 不詳[4]である。

10-6 石油および油頁岩資源[22]

本項の内容は支那石油関係書の翻訳[2], 油田関係[4](河南, 陝西, 四川, 内モンゴ), 天然アスファルト[2](内モンゴ), 油頁岩[12](河北[2], 山西[1], 広東[3], 内モンゴ[1], 吉林[2], 黒龍江[2], 遼寧[1])である。油頁岩の広東省のものは茂名, 黒龍江省のものは三姓地区のものである。翻訳は1919, 1929年のもの, 油頁岩は1920年代のもの[2], 他は1935-40年代のものである。

10-7 金・銀鉱物資源[48]

採録した48点のうち, 最も古いものは1909年だが, 作成年代の不詳のもの[10]を除き, 31点は1932-37年に集中している。地域別では, 中国(熱河, 河北, 山東, 遼寧)の金・砂金の報告[1], 満洲-シベリア地区の報告[3], 河北[3], 山東[1], 広東[2], 熱河[4](金[2], 砂金[2]), 内モンゴ[2], 遼寧[15](金[11], 砂金[2], 銀鑛[2]), 吉林[12](金[8], 金・砂金[4]), 黒龍江[5](砂金[5])である。吉林省の砂金は三道溝[3], 琿春[1]である。

10-8 鉄鉱物資源[84]

84点のうち, 一般的なものは[15](うち製鉄所関係[7]), 鉄資源に触れているもの[69]である。地域的内訳は河北[16](全て龍烟鉄鉱関係のみ), 山東[5], 山西[5], 河南[1], 江蘇[1], 安徽[4], 福建[2], 湖北[4], 広東[3], 海南[5], 内モンゴ[2], 遼寧[15], 吉林[2], 華北[1], 揚子江沿岸[1], 不詳[2]である。江蘇・安徽省の[5]は全て物理探査報告。湖北の[4]のうち[3]は大冶, 南海[5](うち,

田独[3], 石碌[1]), 遼寧[15](うち, 弓張嶺に関するもの[4])である。

作成年代の古いものは大冶の1918年, 揚子江沿岸の1926年である。それより新しいもの[69]のうち, 45点は1935-42年に集中している。

10-9 その他の金属鉱物資源[48]

採録した35点のうち, 銅[3], 鉛亜鉛[10](うち楊家杖子[5]), 硫化鉄[2], マンガン[7](うち江蘇省錦屏鉄山[4]), 錫[1], タングステン[12], モリブデン[4], クロム[1], ニッケル・コバルト[2], 稀元素[1], バナジウム[1], 不詳[2], 非鉄金属[1]である。

10-10 非金属鉱物資源[101]

内訳は螢石[7](遼寧の海城[2], 山西[1], 内モンゴ[1], 山東[1], 浙江[1]), 雲母[2](山西[1], 江蘇[1]), 石綿[2](内モンゴ[1], 湖北[1]), 礬土頁岩[35](河北[6], 山東[9], 遼寧[18], 北支[1], 不明[1]), ベントナイト・漂布土[8](遼寧[1], 吉林[5], 黒龍江[1], 吉林-黒龍江[1]), 石灰石[10], ドロマイト[3], マグネサイト[1], 砕石[2], 石材[3], 海塩[7], 鹹湖鉱物[5], 石膏[2], 重晶石[1], 硝土[1], 珪石[3], 燐[6], その他[3]。

10-11 水資源[22]

地区別では遼寧[11], 内モンゴ, 吉林 各[3], 河北[2], 河南, 山東, 一般論(調査要項)各[1]。堰堤付近の地質調査報告が多い。

10-12 温泉[5]

温泉に関する報告は少なく[5]である。遼寧[3](湯崗子, 興城, 五龍背温泉), 海南[1], 不詳[1]。

11. 非公刊報告類の合本

11-1 広域資源調査9分冊(以下各分冊を①-⑨と略記), [20]

①は陝西省産業調査報告鉄産編[6](石炭, 石油, 石灰石), 209 p. ②は福建, 四川, 西康, 河南, 広西, 各省鉄産関係資料[7], 198 p. {西康特別区域とは東を四川, 南を雲南・ビルマ・インド, 西をチベット, 北を青海に画された地区で, 現在の西藏自治区の東の部分}。③は昭和8年度国防資源調査第1班(鉄産班)報告[1](満洲鉄産資源), 213 p. ④は昭和九年度国防資源調査第四班報告書(石炭班)[1], 133 p. (興安東省, 黒龍江省, 熱河省の資源)。⑤は関東軍国防資源調査第二班(軽金属班)調

査報告, [1], 326 p., (礬土頁岩東辺道, 遼西地方, 熱河省). ⑥は関東軍国防資源調査第二班(軽金属班)調査報告, 1点, 146 p., (礬土頁岩). ⑦は昭和9年度国防資源調査第一班(鉄鉱班)報告, [1], 204 p., (遼寧, 黒龍江省). ⑧は昭和9年度国防資源調査第五班(銀, 鉛, 亜鉛鑛班)報告書, [1], 195 p., (奉天, 黒龍江, 興安省 螢石を含む). ⑨は蒙疆資源調査隊報告書[1], 620 p., (遼寧, 黒龍江省 銀, 鉛, 亜鉛, 螢石).

11-2 石炭資源調査9分冊, [58]

①は北支炭山調査報告で[3], 238 p., (開灤炭田礬土頁岩). ②は山東炭鉱開発資料で[9], 166 p.,. ③は北支の炭鉱関係資料で[17], 248 p., (河北の炭田[8]{うち開灤[5]}, 河南[4], 山東[2], 北支[1], 他[2]). ④は[1], 同宝公司所有大同炭田調査報告, 216 p.. ⑤は大同炭田調査報告山西省石炭関係, [6], 335 p.. ⑥は井陘炭鉱関係資料—1で[7], 214 p.. ⑦は井陘炭鉱関係資料—2で[4], 252 p.. ⑧は北支の炭鉱関係資料[9]で, 150 p., (北支炭鉱の開発, 輸送, 液化事業). ⑨は北支炭山調査報告で[2], 164 p., (開灤炭鉱と耐火粘土).

11-3 石油資源調査1分冊, [2]

陝西省油田調査資料. [2], 305 p.

11-4 鉄鉱資源調査9分冊, [69]

①は龍烟鉄山関係資料[7], 64 p., (輸送関係). ②は北支龍烟鉄鉱第二回運鑛線踏査報告並計画案[1], 291 p., (輸送関係). ③は北支の鉄[6], 97 p., (地質, 鉄石分析, 採掘計画). ④は北支鉄鉱開発案資料[7], 64 p., (華北の鉄鉱). ⑤は龍烟鉄鉱関係資料[19], 224 p., (主に開発関係). ⑥は北支製鉄事業関係資料[11], 225 p.. ⑦は太原製鉄所陽泉鉄廠大冶鉄山諸報告書[3], 133 p., (太原製鉄所, 陽泉鉄廠, 湖北省大冶鉄山). ⑧は石景山製鉄所関係資料[6], 221 p.. ⑨は鉄と国策[6], 254 p.. ⑩は龍烟鉄廠誌第一編から第三編[3], 138 p.

11-5 金属・非金属鉱物資源調査, 3分冊, [14]

①は北支金属鉱床=関スル資料[1], 121 p., (銀, 鉛, 亜鉛, 銅, ニッケル, 満俺, タングステン, モリブデン等). ②は北支の鉱業[12], 311 p., (金, 石綿, 石炭, 石油, 黒鉛). ③は小市A層礬土頁岩及硬質粘土調査報告[1], 121 p., (中国東北部遼寧省本溪市).

11-6 その他, 2分冊, [7]

①北支の板硝子鉱業[3], 131 p.. ②黄河永定河東水利関係資料[4], 357 p.

第三部 朝鮮半島

1. 地質図および地形図類[63]

5万分の1地質図幅(数図幅で1輯の地図帳をなす)1-19輯, 61図幅. 20万分の1地質図幅は義州, 楚山, 厚昌, 慈城の4図幅が出版済みだが, 慈城は欠である.

地形図幅は100万分の1[1], 50万分の1[2], 20万分の1[12]. 5万分の1図幅は保有数は少なく, 朝鮮半島全域の5万分の1地図集成(722枚)が復刻出版(1981)されているので省略した.

2. 報告書類

2-1 国立機関出版物[619]

この項には次の文献が含まれる.

地質調査要報, 12巻, 23分冊, (1919-1936). 朝鮮鉱床調査要報, 7巻, 29分冊, (1912-1943). 第6巻は未出版. 朝鮮鉱床報告, 13巻, 20分冊, (1915-1924)は道別にまとめてある. 朝鮮総督府地質調査所雑報, 1-12号, (1936-1943). 選鑛製鍊試験報告, 15-19, 23, 26, 27, 29, 31, 32. 朝鮮炭田調査報告, 1-13巻. 石炭試験報告1-5巻. 地震年報, (1933-38). 朝鮮鉱業会誌(1-5巻, 1巻-1, 2号, 18-1, 4, 19-10)は欠. このほか朝鮮鉱業会会誌, 朝鮮鉱業. その他朝鮮の鉱業, 鉱業の趨勢, 各道の鉱業状況など.

2-2 その他の出版物[17]

朝鮮鉱物誌(1941), 405p.. 朝鮮地質見学案内書1-5編(1935)など.

2-3 別刷および未公刊出版物[117]

第四部 台湾島

1. 地質図および地形図幅[65]

10万分の1地質図幅および説明書[5]. 5万分の1地質図および説明書[18]. 油田図幅(2万分の1)[5]. 油田地形地質図(1-1.5万分の1)[6]. 地形図幅50万分の1[4]. 20万分の1[14]. 2.5万分の1[4]ほか.

2. 報告書類

2-1 国立機関出版物[44]

台湾鉱床調査要報1, 2号. 鉱物及地質調査報告

1-4号. 油田調査報告[12]. 台湾総督府天然瓦斯研究所彙報. 同所報告(共に欠号あり)など.

2-2 その他の出版物[23]
別刷など.

第五部 サハリン(樺太)島

1. 地質図および地形図類[162]
50-100万分の1地質図など[10]. 5万分の1地形図[151]. 海図[1].
2. 報告書類[30]
北・南樺太の炭田, 油田地質調査報告が多い.

第六部 シベリア地域

1. 地質図類[5]
最新東部西伯利亚明細図, 100分の1, 1-4号, (1918)ほか.
2. 報告書類[9]
西比利釧山綜覧 前後編 計1932 p. ほか.

第七部 ビルマ・タイ・マレーシア地域

1. 地質図類[9]
マレー半島の図[9].
2. 報告書類[7]
ビルマ[4]. マレーシア[3].

第八部 インドシナ地域

1. 地質図類[5]
地質図[1].
2. 報告書類[43]
地理[4]. 黒鉛[3]. 雲母[3]. 燐[4]. 珪砂[3]ほか.

第九部 インドネシア・フィリッピン地域

10-3. 陸水 (Bp2010-Bp2160)

「蔵書目録例」

番号	題名	著者名	発行者又は所属先	発行年	頁数	備考
Bp2010	北支ニ於ケル製鉄立地条件基礎調査トシテノ工場用水水質調査中間報告		北支那開発(株)	1942	32	天津, 濟南, 張店, 塘店, 唐山, 滌泉, 秦皇島
Bp2020	北滿第一次湿地調査東部班地質調査報告	山島 貞雄	南滿洲鉄道(株)地質調査所	1936	32	黒竜江省, 地形, 地質 (44° 00' ~44° 30' × 130° 20' ~131° 15')
Bp2030	国道局飲馬河貯水池堰堤予定地調査報文	尾崎 博	南滿洲鉄道(株)地質調査所	1933	7	吉林省 (44° 00' ×124° 45')

1. 地質図類[12]
インドネシア[7]. フィリッピン[5].
2. 報告書類[57].
インドネシア[39]. フィリッピン[18].

第十部 南洋諸島

1. 地質図類[1]
2. 報告書類[7]
熱帯産業研究所彙報 1-3, 8号.

付録

地図類の位置一覧図など[8].

3. 結 言

1945年以前, 多くの地質技術者が東アジアおよび東南アジア地域において地質, 鉱物資源の研究および調査に従事した. これらの研究調査の一部で地質調査所が保管していたもののリストをまとめることができた. これらは執筆, 出版後50年を経過したのでその所在を明らかにし, 所内, 所外の研究者に御利用いただくことを願っています.

本目録に掲載した資料は地質調査所が保管しており, 外部の方も閲覧, 複写は可能とのことです. 本目録に関する事, 資料の閲覧などについての詳細は地質調査所地質情報センター資料情報課にお問い合わせ下さいとのことです. (電話0298-54-3604).

なお, 本目録に漏れている資料を御存知の方, あるいは欠号雑誌をご所有の向きは上記にお知らせいただければ幸いです.

謝辞: この紹介文の作成に当たり, 地質調査所資料情報課本荘課長, 国際地質課奥村課長に懇切な指導を賜った. 記して謝意を表します.